

和の光

宝塚市立西谷中学校



炊き出し支援隊に参加して感じたこと

宝塚市は「東北地方太平洋沖地震」発生後に、市職員をメンバーとする2回の炊き出し支援隊を現地に派遣しました。地震と津波で大きな被害を受けた岩手県大船渡市へ行き、避難所で豚汁を作る計画です。

最初に宝塚の職場で炊き出し支援の話聞いたときは、少し戸惑いました。当時、まだ寒い現地では燃料不足が伝えられ、全国各地から多くの緊急車両が人命救助と救援物資を運ぶために被災地に向かっています。そんなときにそんなところへ行って、たくさんのガソリンを使い、逆に迷惑にならないだろうかと思ったからです。

「一杯の豚汁が、支援になるのか…」と不安がありました。

今までに見たこともない数多くの緊急車両とすれ違います。また、福島県に近づくと、車内のラジオから各市町村の放射能に関する情報が流れてきます。「現地の人たちはどんな思いでこの放送を聞いているのだろう…」宝塚市から大船渡市までは約17時間かかりました。私は遠いとは思いませんでした。一日あればどこへでも駆けつけられる。何か困ったことがあれば駆けつけてもらえる。

水がとても貴重です。宝塚から持ってきた限られた水しか使えない調理作業は、衛生面で特に気を遣いました。しかし一番の不安は、「この支援が、一杯の豚汁が、本当に被災地で望まれていることなのだろうか」ということでした。1ヶ所目の炊き出しを無事に作り終えたとき、現地の新聞記者さんが私たちに話しかけてきました。**「おばあさんが、豚汁を食べて泣いていましたよ」と教えてくれます。その言葉で、これまでの頭の中の戸惑いが一気に吹き飛び、私も涙があふれ出てきました。**この避難所では、お昼ご飯としての炊き出しだったのですが、献立は炊き出し支援隊が作った豚汁だけです。地震から2週間経っても、避難所でのこの日の昼食は「一杯の豚汁」だけでした。

この日の午後は、次の避難所です。炊き出しの豚汁は避難者だけでなく、近隣住民の方にも食べてもらいます。夜には雪が降ってきました。とても寒く暗い夜です。そんな中、みなさんが空のお鍋を持って並んでくれます。「3人分をお願いします…」「5人分を入れてください…」。なかには、空のカップ麺の入れ物を持ち、「ここにいらしてください…」と言われるかたもいました。この避難所まで1時間も歩いて、豚汁を取りに来た小学生もいました。夜の献立は、1人分をきっちりと計って配られたご飯と、私たちの豚汁だけです。

もう、「一杯の豚汁が支援になるのか…」という不安は完全になくなっていました。「支援は理屈ではない」、そう感じた瞬間です。

最後は、2日目の昼食の炊き出しです。こちらでも、「今日は、地震後に初めて温かいものを食べました」というかたがいました。

食べるということはとても大切なことです。被災地で炊き出し支援をすることで、私自身があらためてそう思いました。

「自分には、なにができるのか。自分にも、なにかができる。」

復興にはいろいろな支援の方法があります。私は学校給食調理員の立場から、「ご飯を粗末にしないで最後まで食べましょう」ということを日々の学校生活の中で伝えていきたいと思っています。被災地に対しての直接的な支援ではありませんが、**「食べる」ということと、「食べ物」がいかに大切で大事なものであるのかを知ってほしいと思います。**1回目の派遣には私を含めた3人の宝塚市の調理員が参加しました。しかし、それ以上に数多くの調理員が、出発前日までの食材の仕分けや下準備に協力し、当日早朝の積み込み作業も出発直前まで手伝いました。みんなの気持ちが一つになっていたことを実感します。

※「東北地方太平洋沖地震」発生直後に炊き出し支援を行った宝塚市のある調理員さんの手記

■全校道徳「阪神・淡路大震災から学ぶ」

阪神・淡路大震災から30年経った今日、全校生徒で「阪神・淡路大震災に学ぶ」というテーマで授業を行いました。

1年生担任の図師先生から震災が起きた時、大きな揺れで目が覚めて、怖さから毛布を被って揺れがおさまるのを待ったこと、台所の食器が棚から床に飛び出してしまったことなど、実際の体験を通して話していただきました。そして、当時自分と同じ年齢（中学2年生）の生徒が地震で命を失ったことに衝撃を受け、今でも忘れられないこと。その生徒が生きていれば、友達と楽しく勉強や部活をして立派な大人になっていたのだろう…と考えると今でも忘れられないと語っていただきました。

続いて、井崎先生（栄養教諭）からは、地震が発生したときの宝塚や神戸の様子について写真を交えて説明していただきました。その中で、学校給食をいち早く再開するために、市内の調理員さん達が力を合わせて取り組んだことなどを話していただきました。

震災を体験した二人のお話を聞くことで、「命の尊さ」「食事ができることの有難さ」「人と支え合うことの大切さ」などを学ぶ機会になったと思います。（1月17日）



西谷中生・教職員全員で黙とう



図師先生・井崎先生の体験談に胸を打たれました



震災追悼の行事（宝塚市）



炊き出し支援の様子

【生徒の感想】

- ★僕はこの道德の授業を活かして、一回一回に食べる食事を大切にしていきたいと思いました。災害時のメニューを見ると、食べ物が限定されていて可哀そうだなと思いました。（1年生男子）
- ★僕は大きな地震を経験したことはありませんがニュースで映像を見たことはありますが、分からないこともありました。図師先生と井崎先生のお話を聞いて大事なことや大変だったことがよく分かりました。（1年生男子）
- ★震災はいつ起きるか分かりません。だから震災への備えをしっかりとしなければなりません。これからも阪神・淡路大震災のことを忘れないように伝えていきたいです。（1年生男子）
- ★今回、阪神・淡路大震災の話を聞いて、たくさんの建物が倒れたりしたことを知りました。地震はとても怖いものだと思います。（1年生男子）
- ★私は先生から体験談を聞いて、想像よりも被害が大きくてびっくりしました。そして、地震の怖さがとてもよく分かりました。また、自分や友達、家族が地震のために帰らぬ人となると思うと、ぞっとしました。私はスマホをいつも使っていますが、スマホが地震で使えないのは絶対に嫌です。これ以外にも当たり前に使っている水道や電気、ガスが無いと、私は生活ができないかも知れません。だから地震への備えは大事だと思います。（1年生女子）
- ★私は体験談を聞いてとても驚きました。なぜなら、思っていたよりも被害が大きかったからです。私は今までに大きな地震にあったことがないけれど、話を聞いてとても大変だったことが分かりました。日頃、普通に水や電気、ガスを使うことができる私からしたら、「私が当たり前に行っていることは、とても幸せなことなんだ」と思いました。（1年生女子）
- ★阪神・淡路大震災後、食料が無い時、みんなで食べ物を分けたりしていたことを知りました。もし震災が起きた時は、ボランティアなどをして手伝いたいです。（1年生男子）
- ★避難訓練は災害が起きた時にどう避難するかを学ぶことはできるけれど、実際は避難できる道なんてあるかは分からないと思います。震災の時、寒い体育館に数か月もい続けられないといけないのは、すごく大変だったのだろうなと思いました。聞いた話を忘れずに災害に備えようと思いました。（3年生女子）
- ★地震はいつどこで起きるか分からないので、震災の話をたくさん聞いて30年前の出来事を無駄にしないよう活かしていきたいです。また、普段の生活でも家族と避難場所について話すことや、棚が倒れないようにするなどの工夫ができると思います。防災グッズなどの備えも大切だと思います。宝塚の人が東日本大震災の時に福島まで支援に行ったことを知って、もし他の地域で大きな地震があった時に、自分にできることを考えて支援できたらいいと思います。（3年生女子）
- ★阪神・淡路大震災の写真を見て、自分がそこに居たら…と心が痛くなりました。私は阪神・淡路大震災のような経験はないけれど、今回の講演で巻き込まれる可能性があることを学びました。（3年生女子）

- ★今日の道德で話を聞いて、震災の時は本当に大変だったのだらうと思いました。これから起きると言われている南海トラフ地震について本当に怖いと思っています。そのため、家族とは避難する場所などをしっかりと話しておくべきだと思います。（3年生女子）
- ★温かい給食を普通に食べているけれど、災害が起きた時はそれが普通じゃないので、温かい給食を食べることができる有難さを感じました。また、そう遠くない日に南海トラフ地震が起きるといわれているので、その時に備えて防災バッグを作ったり、避難ルートを確認したりしておきたいです。（3年生男子）
- ★自分が今平穏に暮らしている宝塚にも、30年前には、当たり前前の生活が奪われるほどの大きな地震があったことが分かりました。ライフラインが途絶えても、震災時には自分たちで使えるものを駆使して生きていかなければいけないということを学びました。また、自助と共助が大切になってくると思うので、自分の命を守る力や地域の繋がりを大切にしていきたいと思います。（3年生女子）
- ★1月のこの時期はとても寒くて、30年前の今頃もとても辛かったのだらうと思います。私は震災を経験していないから当時の人の感覚とは違っているかも知れませんが、今こうやって当時の話を聞くことができる環境を無駄にしないように、自覚を持って過ごしていくべきだと思います。（3年生女子）
- ★僕は大きな地震で被災した経験は無いのですが、このことはどれだけ幸運なのかが分かりました。地震で家が崩壊して命を失ったり、行方不明になったり、トラウマになるようなことだと思う。（3年生男子）
- ★図師先生が涙目になりながら体験したことを話していたのを見て、それほど鮮明に記憶に残るくらい怖かったんだなと胸に刺さりました。自分が生まれる前の話で、お母さんやお婆ちゃんもそこまでの経験をしていないので、大震災は起きないと思っていました。でも、その油断が多くの人々の命を奪うのだと改めて理解することができました。（3年生女子）
- ★自分たちはこの震災を経験したことがない世代ですが、毎回この1月17日が近づくと家族で当時の事を話します。震災はとても怖いものだし、生活も困ります。震災の事を忘れず、次の世代に伝えていくことが大事だと思います。（3年生男子）
- ★崩壊した高速道路でギリギリ残ったバスの話がとても印象に残っています。地震の話を聞くたびによく聞くとある話ですが、その度に「奇跡だったな」と思います。もし、バスが落ちていたらと思うと、とても心が痛みました。地域の方と協力することは大切だと思うので、普段から交流を大切にしていこうと思います。（3年生男子）
- ★阪神・淡路大震災を経験していませんが、経験した人たちの話をこれからの世代に伝えることが大事だと思います。日本は地震が多い国なので、次の世代に伝えて被害を少なくすることも大切だと思います。（3年生女子）